

時代の気分から読み解く消費動向

伊藤忠ファッションシステム 株式会社
ナレッジ室 室長 小原 直花



目 次

はじめに	1
1. 2020 年の時代の気分	2
(1) 5 年後に感じていたい気分とカラー	2
(2) 2020 年、社会構造の転換期	4
(3) 20 世紀的価値観から 21 世紀的価値観へ その①	5
(4) 20 世紀的価値観から 21 世紀的価値観へ その②	5
(5) 2020 年の暮らしのイメージ	7
(6) 2020 年暮らしに必要なモノ・コト・サービス	8
2. 生活者の消費行動 2015 年 ―生活者の気分から消費をひもとく―	9
3. 暮らしを濃化させるマーケットの動き ―濃化の方向性をひもとく―	14
4. まとめ	16

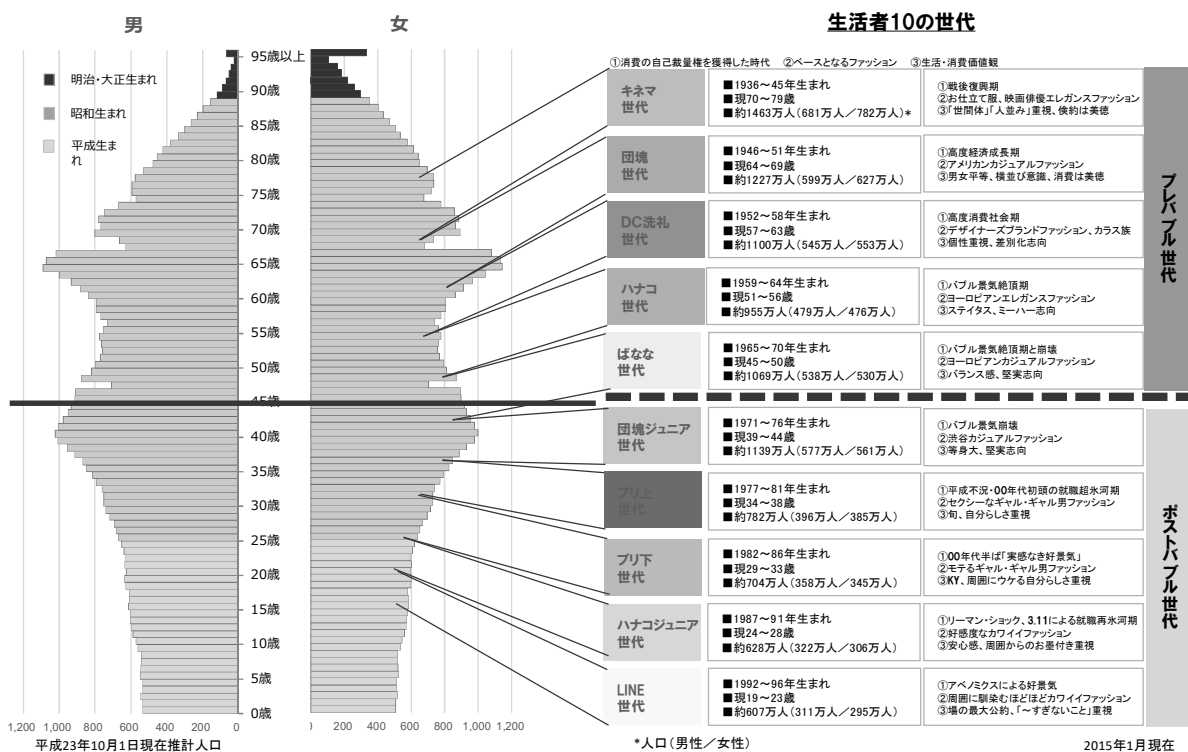
はじめに

私どもでは生活者調査・分析に際して、時代背景や消費の自己裁量権を獲得した時期による価値観の違いなどから、10個の世代区分（図表-1）を設定し、ばなな世代から上の世代を「プレバブル世代」、団塊ジュニア世代から下の世代を「ポストバブル世代」と区切っている（図表-2）。

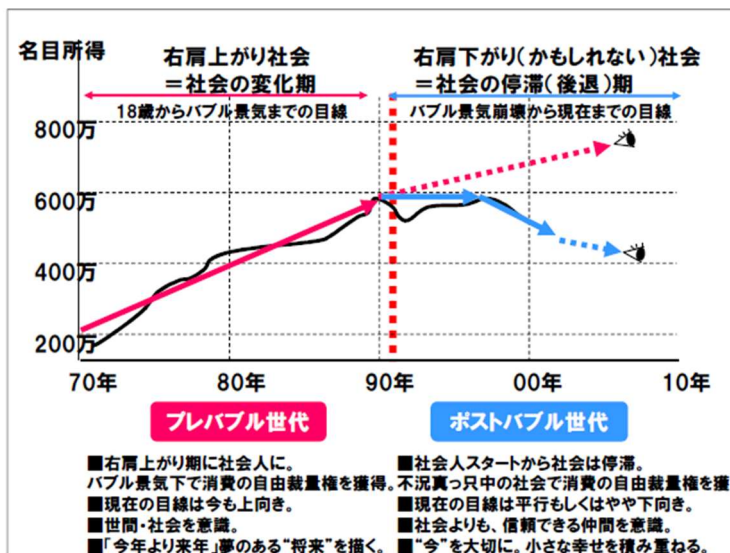
本日は、私どもの生活者調査結果から得た知見をもとに、現在と2020年の生活者の気分と消費動向、それに対する企業のアプローチについてお話ししたい。

図表-1 ifs オリジナル世代区分

ifsでは、時代背景、消費の自己裁量権を獲得した時期による価値観の違いなどから、以下の世代区分を設定。



図表-2 プレバブル世代 vs ポストバブル世代



1. 2020年の時代の気分

(1) 5年後に感じていたい気分とカラー

LINE世代～団塊世代を対象に、定量調査は1都3県の1800サンプル（1世代100サンプル）のweb調査、定性調査はそれぞれの世代の男女2名ずつの深掘りビジュアルアンケート調査とヒヤリングを行った。また、調査結果の経年変化に基づきキーワードを作成した。

<2020年の暮らしの方向性>

下記は、「2020年の暮らしはどのようになっているのか」をダイレクトに聞いた結果の一部である。

●社会の経済・景気は？

- ・今より良くなっている 15.5%
- ・今より悪くなっている 33.1%

「良くなっている」という回答は若い層が多かった。これは“期待”と“比較”の違いだろう。プレバブル世代は良い時代と比較して「悪くなっている」と予想し、若い世代は「今より良くなってくれなければ困る。良くなって欲しい」という期待を込めているのだと思う。

●労働条件（賃金や雇用形態など）は？

- ・今より良くなっている 14.8%
- ・今より悪くなっている 31.4%

これも「良くなっている」という回答は若者に多かった。リタイア前後のDC洗礼世代は「悪くなっている」と答えている人が多かった。

●自然環境・気候（温暖化や異常現象など）は？

- ・今より良くなっている 6.9%
- ・今より悪くなっている 58.0%

この回答結果は、今後の商品開発の大きなヒントになるのではないだろうか。

●自身の経済状況は？

- ・今より良くなっている 25.7%
- ・今より悪くなっている 22.9%

社会の経済状況に比べて「良くなっている」と予想している人が多い。自身と社会の動きをリンクさせていない人が多いことが伺える。

●自身の生活満足度は？

- ・今より高くなっている 27.3%
- ・今より低くなっている 17.0%

社会経済や労働条件が良くなるとは思っていないが、自身の生活満足度は高くなると思っている人が多い。「いかに自分が努力するか」「努力によって満足度は高まる」というところに人々の関心が向き始めたのではないかと考えている。